

ふだんのくらしを幸せに

平出水小学校 六年 大淵 胡々菜

「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせに。

福祉って難しい言葉だが、こう考えると私たちにも分かる気がする。

学校で学んだユニバーサルデザインは、障害があってもなくても全ての人が使いやすいように考えて作られている。

例えば、シャンプーの横にギザギザがついていてリンスと区別ができるようになっている。私もシャワーの時、目を閉じて手探りでシャンプーを探すときに便利だ。

また、バリアフリーについても学んだ。高れい者体験で、実際ゴーグルや耳せんをつけたり、おもりのついた服を着たりした。見えにくいし、聞こえにくいし歩きづらかった。年をとると大変なことが増えるのだなと思った。私の祖父母の家もバリアフリーになっていて、部屋との段差がない。少しの段差でもつまづいてしまうのでコードにも気をつかう。げん関やろう下やトイレ、浴室に手すりがある。私が保育園生のころまで一緒に住んでいたそう祖父は、手すりを使って歩いていた。

今年七月の大雨で伊佐市のいろいろな所が被害にあった。家の中まで水が流れてきた所もある。近所の人やボランティアの人がよごれた家具やたたみを片付けてくれていた。

わたしの家は、山の上にあり道路がくずれたり、橋がこわれ通れなくなったりしてしまった。こ立してしまい学校にも行けなくなった。酪農をしている両親は、牛乳を集めに来るタンク車が来られなくなり、せっかくしぼった牛乳を捨てないといけなくて悲しんでいた。こんな時すぐに地域の知り合いの方が電話をくれて、何が必要か、困っていることはないかを聞いてくださった。そして、わざわざこわれている道路まで食料を届けてくださった。市役所の人もすぐに来て、道路の状況ようを調べて早く通れるようにすると言ってくだ

さった。

私も両親が仕事に出ている間、弟の相手をしたり、ご飯を
たいたり、できるだけ手伝いをするようにした。

母が、

「本当にありがたいよ。こんな時は、特に人の優しさが身に
しみるね。」

と言った。弟が、

「お礼いわなきゃ。」

と言ってみんなも笑ってうなずいた。

三日間学校を休んだが、なんとか回り道ができるようになった。
普段のくらしにもどった。

今回の災害を通して、福祉って困っている人など思いやり
の心をもって生活することなのかなと思う。相手の立場にな
って考えることは大切だけど、時には忘れてしまうこともある。
これからも、このときの体験で人の優しさを感じたことを
忘れずに生きたい。そして、自分もそうなりたいと思う。

